



2024年2月14日

各位

会社名 住友重機械工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 下村 真司
(コード番号 6302 東証プライム)
問合せ先 コーポレート・コミュニケーション部長
島村 佳孝
(TEL. 03-6737-2333)

中期経営計画策定に関するお知らせ

当社は、2024～2026年度の3ヵ年を対象とする中期経営計画「中期経営計画2026」を策定しましたので、お知らせいたします。

記

1. 対象期間

2024年1月から2026年12月までの3ヵ年

2. 中期経営計画の位置付け

当社グループの2030年のあるべき姿を「コア技術で豊かな社会を支え、CSV（共有価値の創造）を実現する企業」と定め、これを基準にバックキャストして本中期経営計画を策定しました。

中期経営計画2026では「強靱な事業体の構築」を基本方針として、収益力の改善、資本効率の向上、新事業探索の強化を重点課題とし、企業価値の向上に努めてまいります。

3. 2026年度 財務目標（連結ベース）

受注高	売上高	営業利益	ROIC
12,800億円	12,500億円	1,000億円	8.0%

詳細につきましては、添付資料をご参照ください。

以上

「中期経営計画 2026」

「中期経営計画2023」 業績・投資 目標と実績

		「中期経営計画2023」 目標 (2022年5月見直)	2021年度 実績	2022年度 実績(12カ月)	2023年度 実績
業績	受注高	10,700億円	10,753億円	11,648億円	10,087億円
	売上高	10,500億円	9,440億円	10,183億円	10,815億円
	営業利益率	7.2% (760億円)	7.0% (657億円)	5.9% (600億円)	6.9% (744億円)
	ROIC	7.5%以上	7.3%	6.2%	7.0%
	(参考) ROE	8.0%	8.5%	3.0%	5.5%
投資	設備投資 (3カ年)	1,170億円	1,112億円		
	研究開発 (3カ年)	680億円	322億円	* 365億円	425億円
			640億円		
			218億円	* 174億円	248億円
	為替レート(ドル)	¥ 120	¥112	¥133	¥139

* 9カ月実績

「中期経営計画2023」 総括と今後の課題

「中期経営計画2023」総括

財務目標

- トップラインは目標達成、半導体関連拡大
- 営業利益は計画並もROICは目標に及ばず

投資関連

- 成長分野（半導体・電機制御関連）への投資が不足
- 過年度買収事業の利益貢献に遅れ

企業価値・ 社会価値 の拡大

- 事業ポートフォリオの組み換え着手、新セグメント体制へ移行
- 新規事業創出に向けた新組織設置
- カーボンニュートラル目標・人権方針設定、人権DD開始、ダイバーシティ推進

人権DD：人権デュー・ディリジェンス

「中期経営計画2026」課題

- ✓ 既存事業の深化と高収益事業の伸長による稼ぐ力の強化
- ✓ 重点投資領域への投資集中(M&A含む)
- ✓ M&A評価プロセスの改善
- ✓ セグメント別ROIC目標設定と成長戦略遂行、事業ポートフォリオ改革の推進
- ✓ 事業化プロセス構築と社内企業家育成
- ✓ CO2削減目標達成に向けた施策実行と人的資本に基づく人材戦略遂行

- ・ 資材費高騰の長期化や固定費増を受けるも、価格転嫁等の施策を進めた結果、営業利益率はほぼ目標並に
- ・ サプライチェーン混乱に起因した部材入手難、生産効率低下による棚卸資産増加、増産投資等による固定資産増加でROICは目標に及ばず

2030年 目指す姿

パーパス

こだわりの心と、共に先を見据える力で、人と社会を優しさで満たします

2030年
あるべき姿

コア技術で豊かな社会を支え、CSVを実現する企業

2030年
財務目標

営業利益：1,300億円

ROIC：10%以上

既存事業の収益基盤強化とともに、
4つのセグメントのコア技術をベースとした
以下の重点投資領域を伸長し、
新たな価値創造と企業価値向上を目指す

【重点投資領域】

- ・ロボティクス・自動化分野
- ・半導体分野
- ・先端医療機器分野
- ・環境・エネルギー分野

サステナビリティ
重要課題

2030年 非財務目標

E	環境負荷の低減	CO2排出量削減（19年比） ・製品製造時：△50% ・製品使用時：△30%
S	よりよい暮らし・働き方の 実現 従業員の安全・健康・育成 地域との共存・共栄 持続可能なSC構築	（自動化技術の更なる進化） ・女性管理職比率：8%超（国内連結） ・社会貢献活動支出額 ：営業利益比1% ・高リスクサプライヤー調査 ：100%
G	ガバナンスの強化 製品品質の確保	・女性取締役比率：30% ・製品に関わる重大 インシデント件数：0件

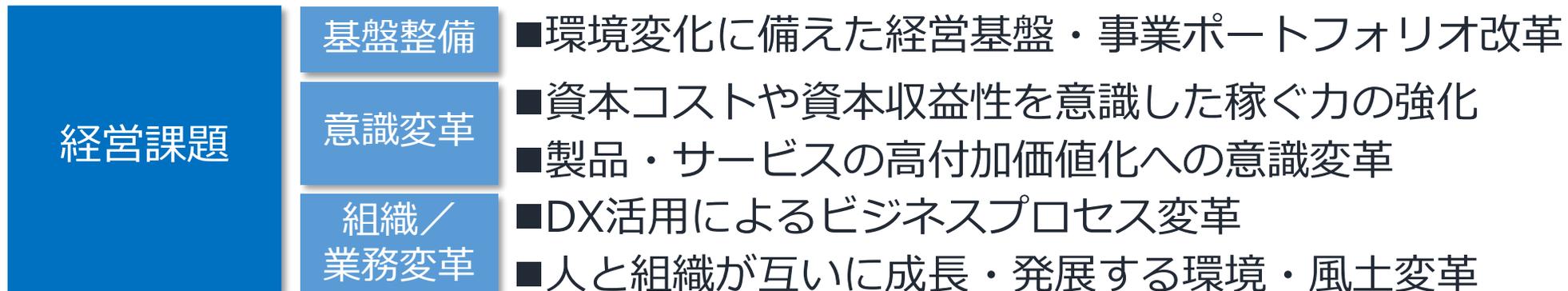
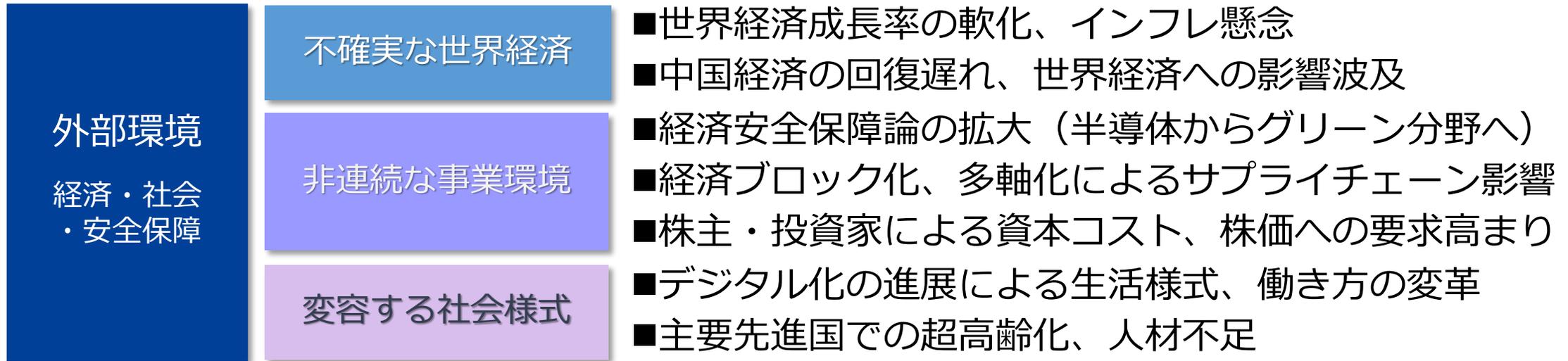
企業価値と社会価値の最大化を目指した財務・非財務目標を設定
財務目標では、継続的に資本コストを上回る収益力の達成を目指す

「中期経営計画2026」 基本方針および骨子



「中期経営計画2026」 外部環境認識と経営課題

既存の成長戦略、事業の前提が通用しない非連続かつ不確実な時代



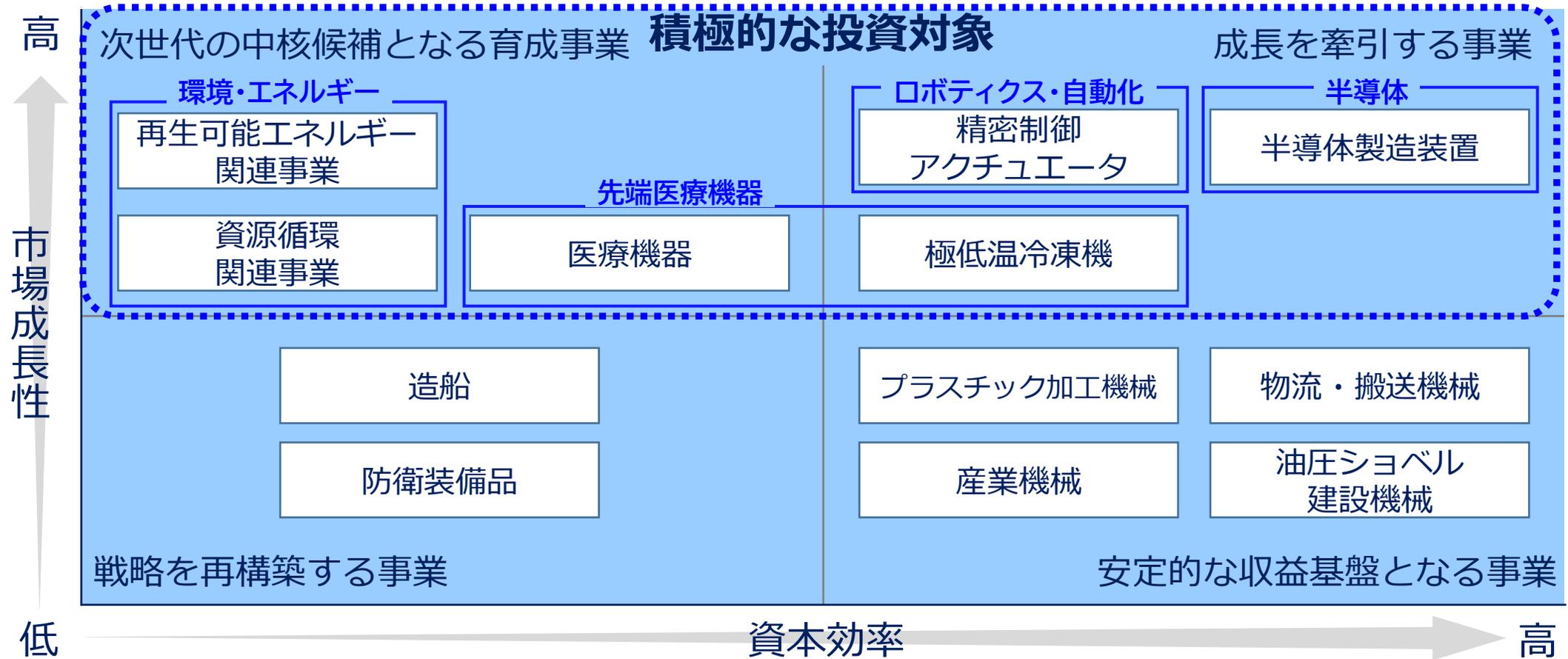
「中期経営計画2026」 業績・投資 予想と計画

		「中期経営計画2023」 実績	2024年度 予想	「中期経営計画2026」 計画値(2026年度目標)
業績	受注高	10,087億円	11,200億円	12,800億円
	売上高	10,815億円	11,100億円	12,500億円
	営業利益率	6.9% (744億円)	6.3% (700億円)	8.0% (1,000億円)
	ROIC	7.0%	6.2%	8%
	(参考) ROE	5.5%	6.5%	10%
投資	設備投資 (3カ年)	1,112億円	1,900億円 (うち重点投資領域 800億円)	
	研究開発 (3カ年)	640億円	900億円 (うち重点投資領域 540億円)	
為替レート(ドル)		139円	135円	

「中期経営計画2026」 セグメント別 業績予想・計画

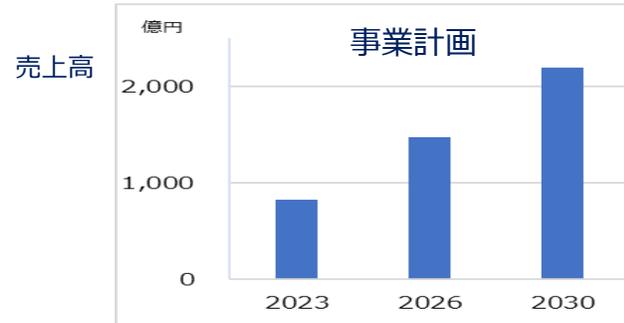
(単位：億円)	2023年度 実績				2024年度 予想				「中期経営計画2026」 計画			
	受注高	売上高	営業利益	ROIC	受注高	売上高	営業利益	ROIC	受注高	売上高	営業利益	ROIC
メカトロニクス	1,978	2,200	124	5.1%	2,210	2,130	100	4.2%	2,650	2,600	200	7.0%
うち プラスチック加工機械	893	971			1,025	950			1,100	1,100		
インダストリアル マシナリー	2,650	2,798	256	10.0%	2,870	2,850	260	9.6%	3,450	3,400	370	11.5%
うち油圧ショベル	2,125	2,424			2,600	2,710			2,900	2,900		
ロジスティクス& コンストラクション	3,936	3,934	281	8.7%	4,190	4,280	315	10.2%	4,600	4,600	330	10.0%
エネルギー& ライフライン	1,463	1,822	63	4.1%	1,890	1,810	10	0.7%	2,100	1,900	100	6.0%
合計	10,087	10,815	744	7.0%	11,200	11,100	700	6.2%	12,800	12,500	1,000	8.0%

コーポレート戦略：事業ポートフォリオ改革の推進



- ・ 成長を見込む重点投資領域事業へ経営資源を集中し事業の拡大を図る
- ・ 低成長・低収益事業の戦略再構築を実施する

コーポレート戦略：成長牽引事業（半導体分野の戦略）



主要課題

1. 市場拡大・変化（パワー半導体・SiC）に対応した次世代機種開発の促進
2. グローバル展開強化と既存顧客シェア拡大
3. 事業のシナジー追求（情報共有基盤整備、開発連携、生産協力、サービス連携）と組織能力強化促進

現行製品



イオン注入装置

パワー半導体
イメージセンサ
メモリ、ロジック

対象

- ・パワー半導体向け新機種開発等
- ・次世代装置開発

基本戦略

強み

- ・日本のトップメーカーとして、グローバルで高いシェア
- ・新工場建設にて生産能力増加(2倍)に対応



レーザーアニール装置

パワー半導体
SiCオーミック・
コンタクト
IGBT裏面活性化

- ・パワー半導体向け国内外の新規顧客開拓
- ・次世代機開発

- ・パワー半導体用レーザーアニールでは世界トップクラスの販売実績



MCZ用超電導マグネット成膜装置等

パワー半導体
シリコンウェハ等

- ・パワー半導体向け新機種開発等
- ・次世代装置開発

- ・シリコンウェハ製造において高いシェア
- ・大手ウェハメーカー(2社)に納入実績多数
- ・素材メーカーとSC強化



クライオポンプ

パワー半導体
PVD装置
イオン注入装置

- ・新機種開発と新規顧客の開拓

- ・大手半導体製造装置メーカーに納入実績多数



精密位置決め装置

露光装置、マスク描画・
マスク検査装置、
ウェハ検査装置

- ・海外顧客開拓
- ・高精度、高性能次世代装置の開発

- ・次世代半導体向け製造装置に要求される高精度、高性能



真空ロボット

真空
プロセス装置

- ・顧客内シェア拡大
- ・生産力強化

- ・大手半導体製造装置メーカーでのシェア拡大中

SC：サプライチェーン 装置 コンポーネント

コーポレート戦略：戦略再構築事業（造船事業の再構築）

新造船事業からの撤退：

- 一般商船建造は2024年度以降の新規受注を停止し、受注残の引き渡しをもって終了
- エネルギー＆ライフライン セグメントの戦略に基づいた事業構造改革を推進

E&Lセグメント戦略の柱

脱炭素エネルギー領域

資源循環領域

サービス領域

撤退後の事業構成

- ・洋上風力用構造物および関連船舶
- ・風力推進コンポーネント

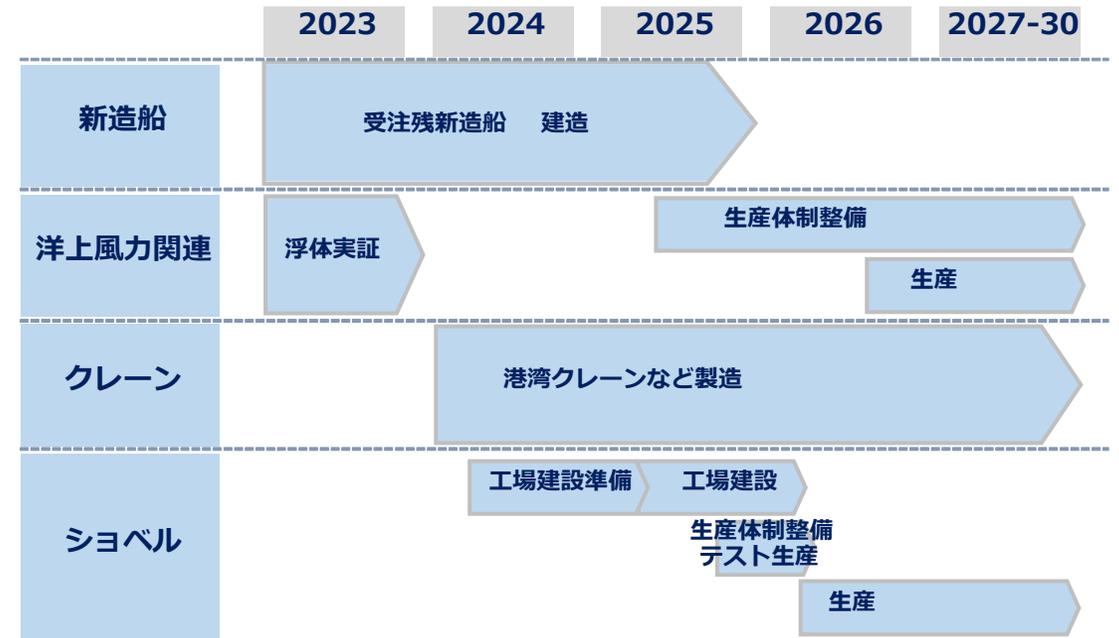
- ・修理船事業

- ・風力推進関連等のエンジニアリングおよびサービス

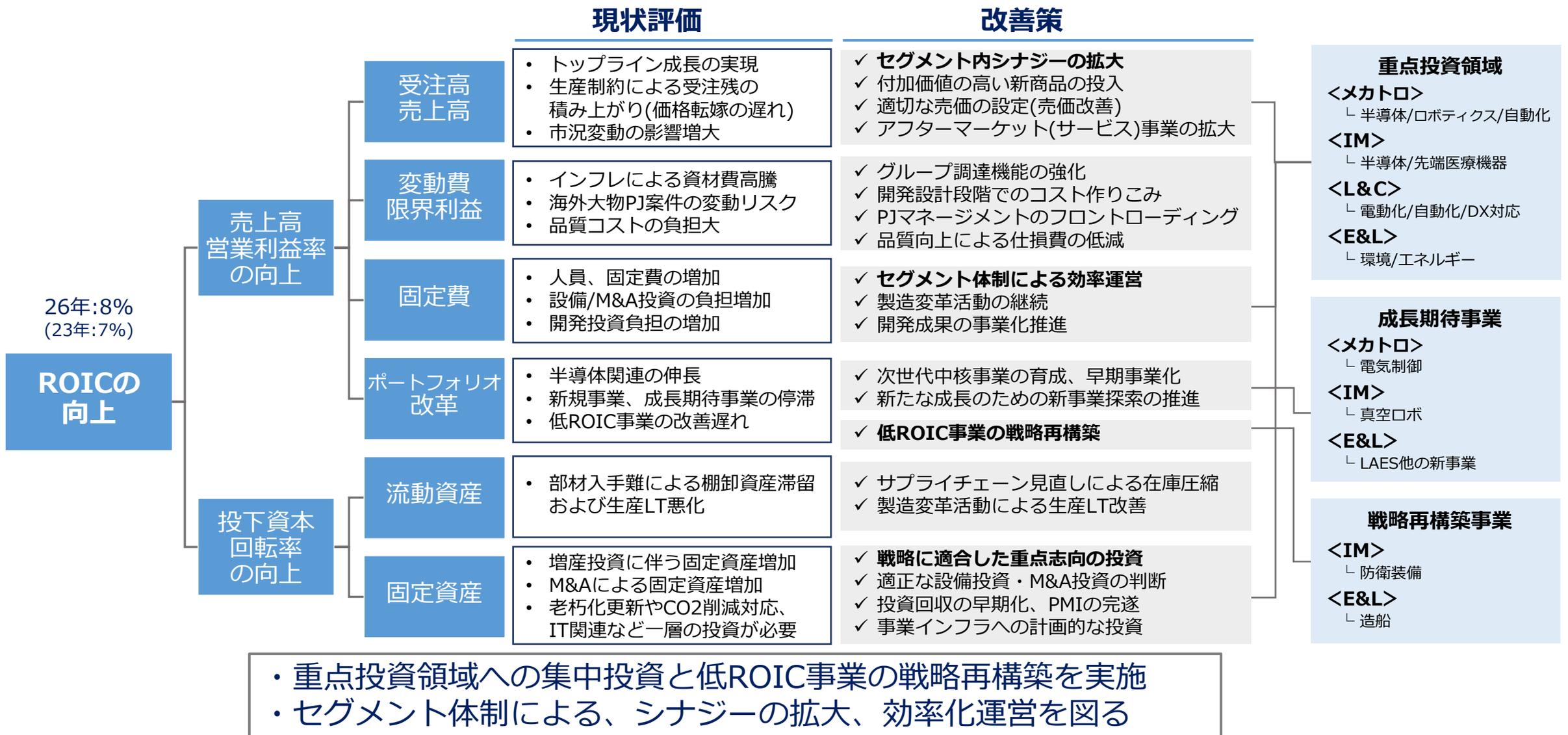
横須賀製造所 活用

- ・大型クレーン等グループ内の生産協業
- ・資産を活用したショベル生産拠点化

事業再編スケジュール



コーポレート戦略：資本効率向上に向けた現状評価と改善策



コーポレート戦略：資本政策（キャッシュアロケーション）

- ・ ROIC向上施策の推進によりキャッシュ・フロー創出力を強化、有利子負債も活用し投資と株主還元へに配分。
- ・ 株主還元はDOE 3.5%以上、最低配当125円かつ総還元性向 40%以上を基本方針とし、安定配当と自社株買いの実施により中計26期間中に800億円規模の還元を行う。
- ・ 2024年度は1株当たり配当予想を5円増配の125円、自社株買い100億円の実施を決定した。
- ・ 中計26期間中はDOEを3.5%以上への向上と自社株買いの継続で、総還元性向は50%以上の水準を想定。

キャッシュ・イン

<p>営業CF (研究開発費 控除前)</p> <p>3,000億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 収益力の向上 キャッシュフロー創出力の向上 ・ 運転資本の圧縮 製造変革活動による 生産リードタイム改善 ・ 低ROIC事業の構造改革
<p>有利子負債</p> <p>600億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 有利子負債の活用 財務健全性を損なわない 範囲で有利子負債を活用

キャッシュ・アウト

<p>設備投資 (含むM&A)</p> <p>1,900億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点投資領域への投資 〔ロボティクス・自動化、半導体、先端医療機器、 環境・エネルギー分野に重点投資〕 <p>800億円</p>
<p>研究開発費</p> <p>900億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 重点投資領域への投資 〔ロボティクス・自動化、半導体、先端医療機器、 環境・エネルギー分野に重点投資〕 <p>540億円</p>
<p>株主還元</p> <p>800億円</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 株主資本に見合う安定配当の実施 DOE 3.5%以上 下限配当は125円/株 ・ 資本政策を加味した自社株買いの実施 総還元性向 40%以上

コーポレート戦略：経営基盤強化（サステナビリティ）

「中期経営計画2026」 サステナビリティ 基本方針

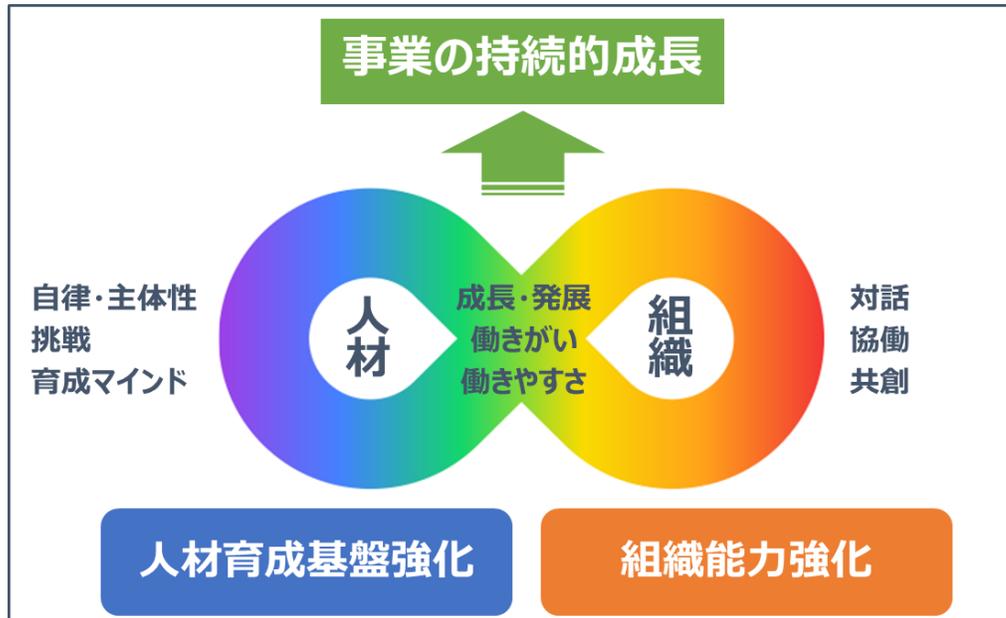
SDGs、当社Gの2050年カーボンニュートラル目標達成に向けた対応を強化し、社会環境変化のリスクをチャンスへ変えて企業価値向上を目指す

区分	重要課題	2023年 実績	2026年 目標	「中期経営計画2026」 施策内容
価値創造課題	E 環境負荷の低減	CO2排出量削減（19年比） ・製品製造時：+ 2% ・製品使用時：△65% ※22年実績	CO2排出量削減（19年比） ・製品製造時：△35% ・製品使用時：△50%	・削減目標・投資計画・施策の立案(セグメント/BU整合) ・第三者検証(全社Scope3 Cat.1CO ₂ データ取得FS開始) ・生物多様性等新たな課題の対応検討
	よりよい暮らし・働き方の実現	(自動化技術の更なる進化)	(自動化技術の更なる進化)	・製品による生産現場負荷軽減の価値測定試行継続
経営基盤強化課題	S 従業員の安全・健康・育成	・女性管理職比率：2.1% (国内連結)	・女性管理職比率：3.7% (国内連結)	・人的資本経営、ダイバーシティ(女性活躍推進)、健康経営(ホワイト500等)
	地域との共存・共栄	・社会貢献活動支出額：1.5億円	・社会貢献活動支出額：2.0億円	・方針に基づく活動促進、地域・多様なステークホルダーとの協働
	持続可能なサプライチェーンの構築	・試行開始	・高リスクサプライヤー調査：100%	・人権デュー・ディリジェンス(サプライチェーンの人権尊重拡大)
G	ガバナンスの強化	・女性取締役数：1名	・女性取締役数：2名	・取締役会の監督機能の強化・ダイバーシティ推進
	製品品質の確保	・製品に関わる最大インシデント件数：0件	・製品に関わる最大インシデント件数：0件	・ISO実効性評価への変革、製品安全の統治機能強化

コーポレート戦略：経営基盤強化（人的資本）

人的資本経営

「人材は最大の資本。人と組織の成長・発展こそが事業の持続的成長の源泉」と捉え、人材を経営・事業運営の中核に位置付ける。人的資本投資として特に人材育成基盤強化、組織能力強化に重点的・継続的に取り組み、「人と組織が互いに成長・発展する環境・風土」への変革を図っていく。



「中期経営計画2026」重点課題

人材確保	<ul style="list-style-type: none"> ▶人材採用・定着 [採用計画] (3年間) 重点投資領域人材 500人規模 DX人材 (ICT人材) 50人規模 ▶個人の志向と配置・活用の両立
人材育成基盤強化	<ul style="list-style-type: none"> ▶事業戦略と連動した育成プログラム編成 人材育成センターの新設 アップスキリングとリススキリング ▶経営人材育成
グローバル人材マネジメント基盤整備	<ul style="list-style-type: none"> ▶グローバル人材育成 ▶海外人材の活用
組織能力強化	<ul style="list-style-type: none"> ▶組織開発活動
ダイバーシティ推進	<ul style="list-style-type: none"> ▶女性活躍の推進強化

セグメント戦略：各セグメントの役割と方向性

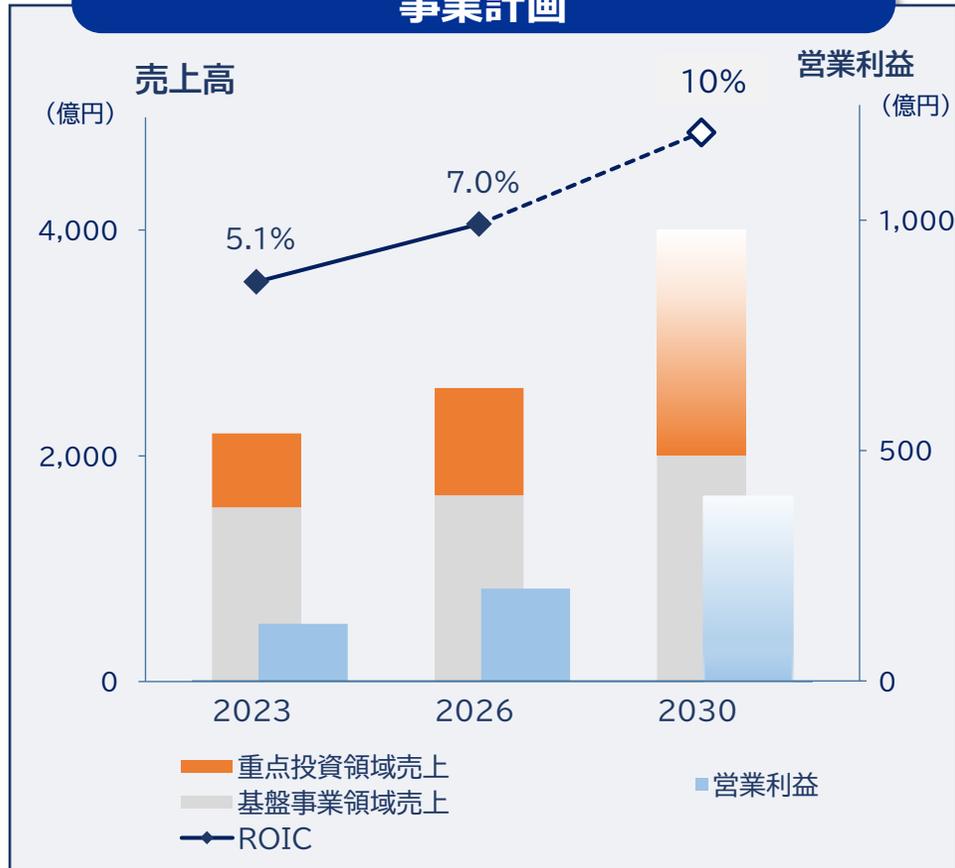
セグメント	役割・位置付け	目指す方向性	重点投資領域
メカトロニクス	高収益で 成長牽引 セグメント	<ul style="list-style-type: none"> 電機制御分野事業への積極投資 半導体関連事業の伸長 ロボティクス電機駆動モジュールの展開強化 	<ul style="list-style-type: none"> ロボティクス・自動化分野 半導体分野
インダストリアル マシナリー		<ul style="list-style-type: none"> グローバル成長市場に先端技術で応え、進化するポートフォリオによる高収益事業体 半導体関連、医療機器等の重点投資領域の伸長 	<ul style="list-style-type: none"> 半導体分野 先端医療機器分野
ロジスティクス& コンストラクション	安定収益を 確保する 基盤セグメント	<ul style="list-style-type: none"> 物流・建設機械の自動化、省力／省人化による社会価値と企業価値の同時実現 事業間連携による新市場展開と新製品開発 電動や新コンポーネント等の新技術の製品化 	<ul style="list-style-type: none"> ロボティクス・自動化分野
エネルギー& ライフライン	将来成長 のための 育成セグメント	<ul style="list-style-type: none"> 脱炭素エネルギー、資源循環領域の新事業化 セグメント内コンピタンスの結合、シナジー 	<ul style="list-style-type: none"> 環境・エネルギー分野

セグメント戦略：メカトロニクス セグメント

2030年
目指す姿

メカトロイノベーションとドライブソリューションで社会・顧客の課題解決に貢献する

事業計画



戦略の方向性

①重点投資領域の伸長

「ロボティクス・自動化」分野

- ・AGV/AMR需要増、ロボット向け電動モジュール開発・拡販
- ・HVAC分野向け省エネ、高効率インバータ搭載モジュール拡販

「半導体」分野

■レーザアニール装置

- ・グローバル販路拡大、製造能力・サプライチェーンの増強

■精密位置決め装置

- ・グローバル展開加速、海外評価拠点設置、次世代機開発

②基盤となる事業領域の収益強化

- ・ギヤ・モータ仕様集約による収益力強化、安定収益基盤の確保
- ・インストールベースビジネス拡大によるリプレース・アップグレード展開

ROIC改善ポイント：◇省エネ・環境規制関連需要の取込み

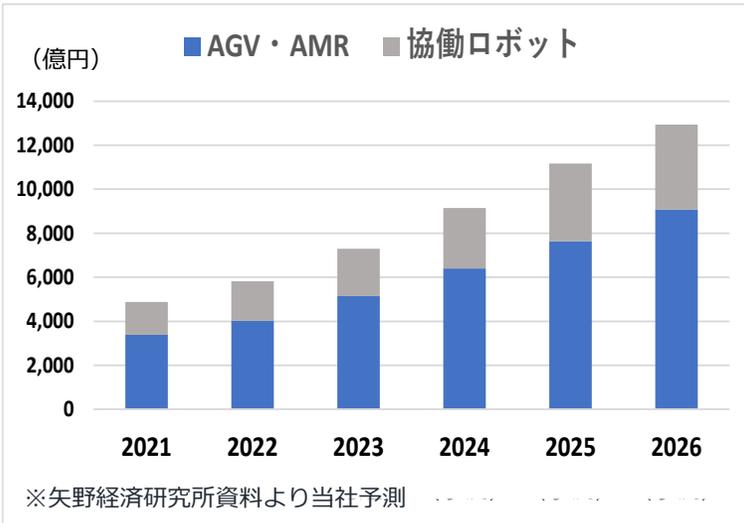
◇半導体関連事業の成長

◇ギヤ・モータの仕様集約による生産効率化

◇精密制御用減速機の収益力改善

セグメント戦略：メカトロニクス セグメント（ロボティクス・自動化）

市場の成長予測



電機制御・ロボティクス分野の成長に向けた主な投資

- 英Invertek社の生産能力増強 – 省エネ・環境規制関連投資で売上規模拡大
- 英Invertek社内に開発拠点新設 一次世代機、電動化技術開発促進
- 伊Lafert社の生産能力改善 – 効率改善で収益率改善、ROIC改善

PTC・Lafert・Invertek・メカトロのソリューション協業で先端電動モジュールを開発・提供



市場ニーズ

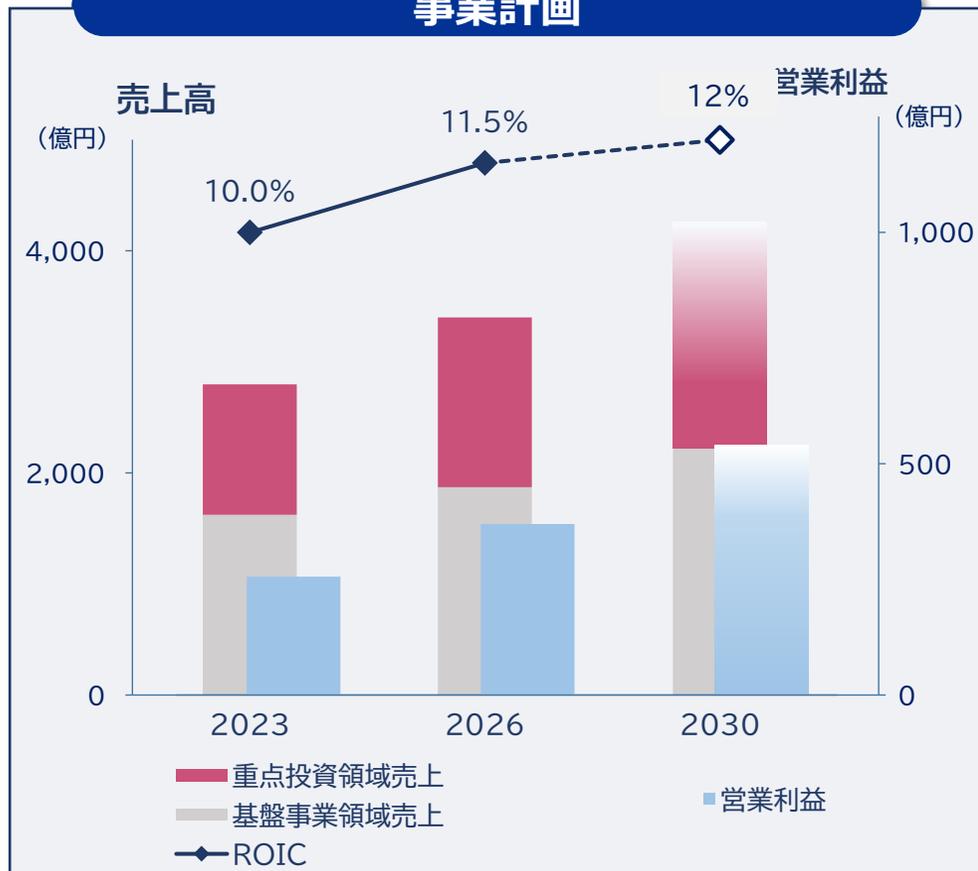
- 人手が不足しがちな物流・搬送業務の自動化・電動化
- 人に近い場所で協働するための安全性
- 専門スキルを持つ人材がいなくても簡単に使用できるユーザビリティ

セグメント戦略：インダストリアル マシナリー セグメント

2030年
目指す姿

グローバル成長市場に先端技術で応え、進化するポートフォリオによる高収益事業体

事業計画



戦略の方向性

①重点投資領域の伸長

「半導体」分野

- ・新商品開発による競争力強化
- ・グローバル展開強化、生産能力・サプライチェーン強化

「先端医療機器」分野

- ・開発機種市場導入と、適応疾患拡大による競争力強化
- ・核医学治療分野での開発（内用療法等）取り組み

②基盤となる事業領域の収益強化

- ・機種ポートフォリオの整理による収益力強化
- ・経営資源（開発、調達、拠点）の有効活用

ROIC改善ポイント：◇重点投資領域である「半導体、先端医療機器」分野へ経営資源の集中による競争力強化

◇半導体関連事業の成長

◇成長に向けた生産能力の増強

セグメント戦略：インダストリアル マシナリー セグメント（先端医療機器）

市場の成長予測

- 中長期的には高齢化の進展、新興国の医療インフラ整備、先進国での高度医療化が進む
- 2022年から世界の医療機器需要は約6%の成長予測

市場ニーズ

- 患者の負担を少なくした、QOL(Quality of life：生活の質)の維持
- 放射線治療における適応疾患部位の拡大

先端医療機器の成長に向けた主な投資

- 医療/半導体 新クリーンショップ
- 工場拡張による生産能力強化、開発・O&M人材の確保

次世代先端治療装置、核医学関連機種およびMRI用冷凍機の開発

● 陽子線/BNCT治療装置

がん適用部位拡大による市場拡大

- ・ 次世代新製品開発
- 次世代陽子線システム
- 世界唯一の承認医療機器 (BNCT)



陽子線治療システム

● 核医学機種

新薬開発によるPET需要拡大

- ・ 内用療法 (RI) 適用拡大へ向けた開発



BNCT治療システム

● MRI用極低温冷凍機

省ヘリウム(He) (Heの価格高騰/供給難による顧客需要変化) 省エネニーズ
・ 省He MRI向け開発など



PET用サイクロトロンシステム



内用療法用サイクロトロン



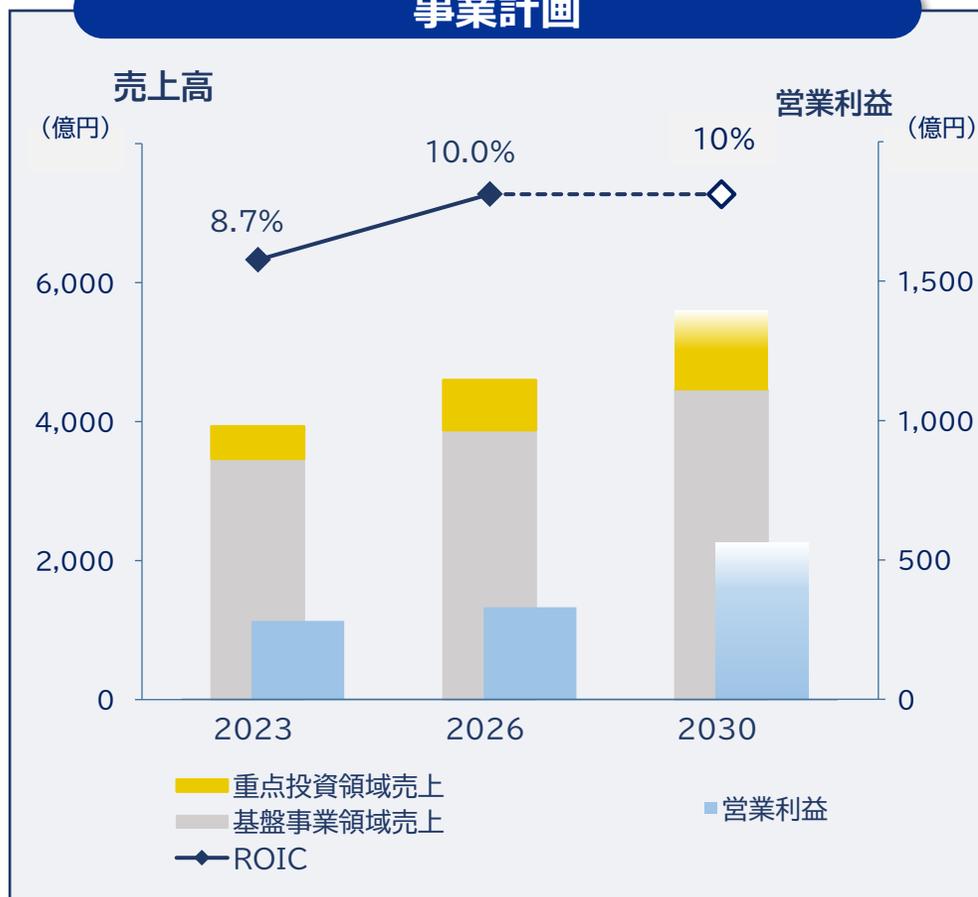
極低温冷凍機

セグメント戦略：ロジスティクス&コンストラクション セグメント

2030年
目指す姿

技術革新により、人と環境に優しい物流&建設機械で社会インフラを築く事業集団

事業計画



戦略の方向性

①重点投資領域の伸長

「ロボティクス・自動化」分野

■ 開発戦略

- ・セグメントの開発体制を整備し、共通の電動化/自動化/DXなど、先進の要素技術開発に集中
- ・開発協業によって新機種の探索推進

②基盤となる事業領域の収益強化

■ 販売戦略

- ・日米欧先進国市場での収益確保
- ・米国：LBC起点としたHSC、SHI-MHの販売協業
- ・欧州：クレーン事業連携の販売拠点設立により橋頭堡を築く

■ 生産戦略

- ・新たに横須賀を加えた国内4か所、海外3か所の生産拠点活用によるグローバル市場変動へフレキシブルに対応可能な最適生産体制構築
- ・品質に対する取り組みを強化、高信頼の当社ブランドを堅持

ROIC改善ポイント： ◆先進国での収益拡大
◆アフターサービスの充実

セグメント戦略：ロジスティクス&コンストラクション セグメント（自動化）

主要開発課題

機 種

開発の背景・方向性

① 電動化	<ul style="list-style-type: none"> ■建設機械 (ショベル、建機クレーン) 	<ul style="list-style-type: none"> ■建設機械事業ではカーボンニュートラル、省エネなど社会課題解決への要請が高まる。 ■グループにおける油圧機械制御での知見、技術を活かし、ショベル、クレーンなどの電動化開発を推進中。住友建機では、電動化推進室を新設し、開発体制を強化。 ⇒単にカーボンニュートラルのみならず、電動化によって可能となる広範な電気/油圧制御に目を向け、定評のある操作性、高生産効率を追求し、差別化を図る。
② 遠隔・自動化	<ul style="list-style-type: none"> ■物流機械 (物流倉庫、搬送クレーン) ■建設機械 (ショベル、建機クレーン) 	<ul style="list-style-type: none"> ■物流倉庫、搬送クレーン事業で先行する遠隔・自動化は、『働き方改革』や『オペレータ不足』など社会課題解決のため、建設機械事業へも広がる。 ⇒物流機械は『モーション制御』、『周辺環境認識』、『物流/生産効率最適化』などに強み。『モーション制御』、『周辺環境認識』は建設機械でも展開。

高密度自動倉庫（商品）
&AGF（商品）

マジックラック

AGF = Automated Guided Forklift
(無人搬送フォークリフト)

マジックラック=高密度自動倉庫の登録商標

遠隔自動RTG（商品）
&ハイブリッドRTG（商品）RTG = Rubber Tired Gantry crane
(タイヤ式門型クレーン)

電動ショベル試作機



電動建機クレーン試作機



遠隔・自律ショベル試作機

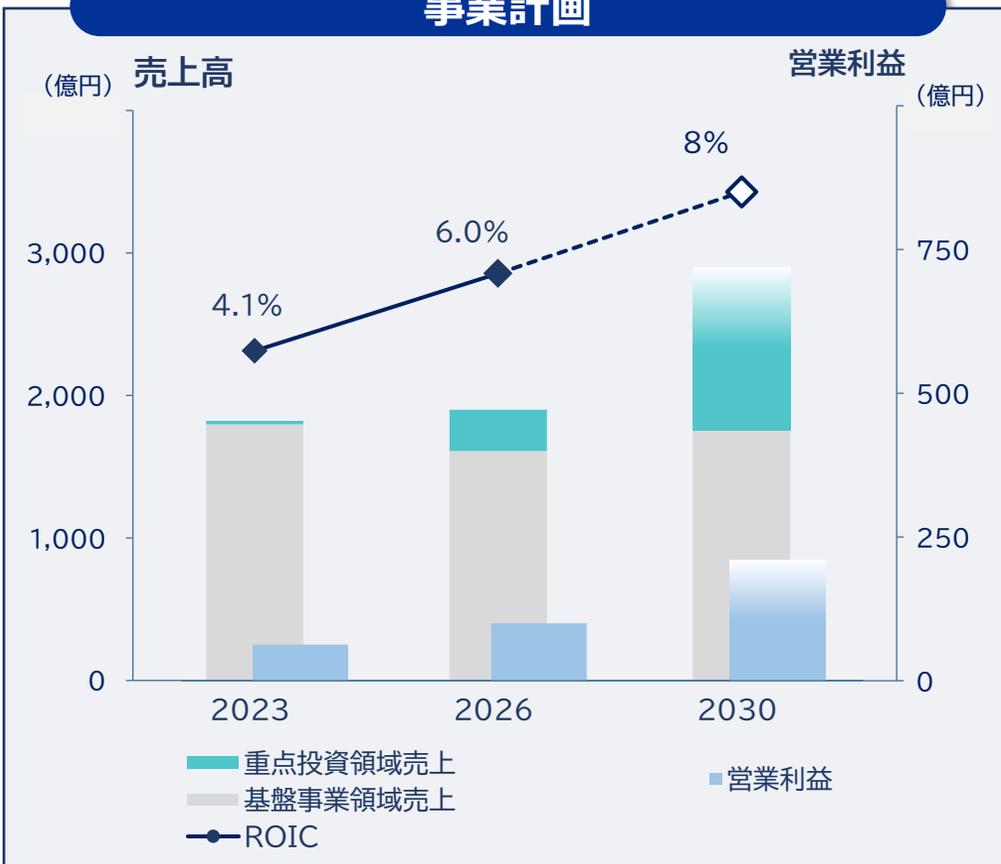


The machine will automatically determine the loaded amount on the dump truck and level it.

セグメント戦略：エネルギー&ライフライン セグメント

2030年
目指す姿(1)カーボンニュートラル事業 (2)再エネ促進事業 を軸とした
脱炭素エネルギー・資源循環領域のソリューションプロバイダー

事業計画



戦略の方向性

①重点投資領域の伸長【新規事業】

「環境・エネルギー」分野

(1)カーボンニュートラル事業

- ・バイオマス発電、バイオマスを原料とした持続可能な燃料(SAF等)製造
- ・CO2回収・再利用等カーボンネガティブ技術の開発

(2)再エネ促進事業

- ・液化空気エネルギー貯蔵設備による系統安定化
- ・洋上風力向け基礎構造物事業化～量産

②基盤となる事業領域の収益強化【既存事業】

■ サービス連携強化

- ・機能強化・提案メニューの拡充、セグメント内の連携推進

■ プロジェクト採算管理の徹底

ROIC改善ポイント：◇ サービス事業強化による利益拡大
◇ 脱炭素エネルギー・資源循環領域での次世代中核事業の育成・事業化加速

セグメント戦略：エネルギー&ライフライン セグメント（環境・エネルギー）

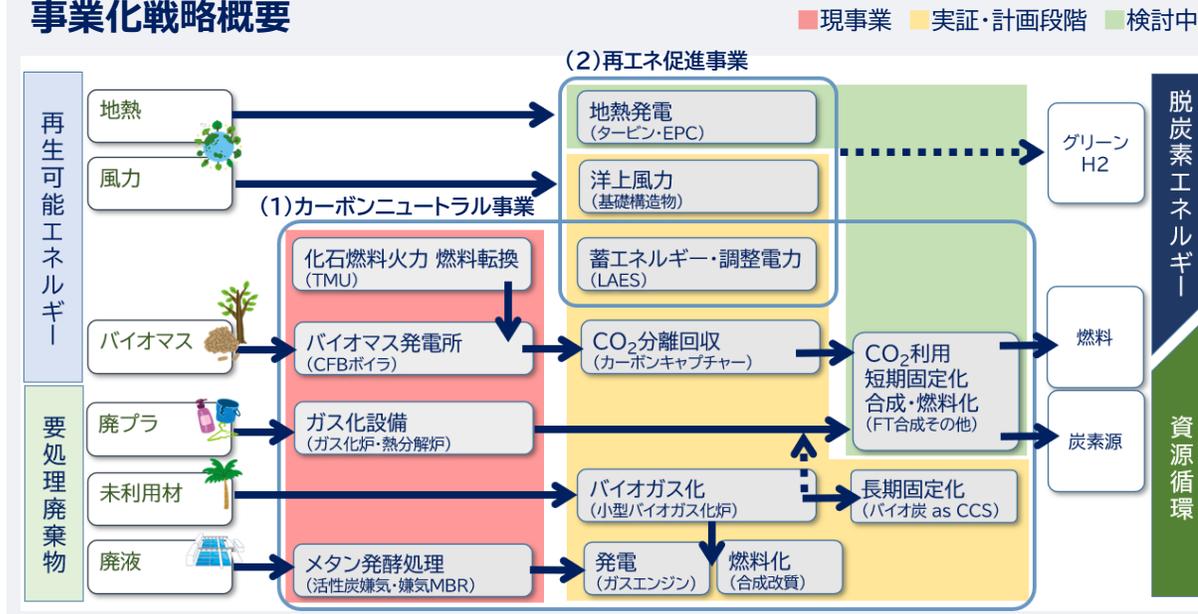
主要戦略課題

事業開発の方向性

投資項目

(1) カーボンニュートラル事業	CCU	<ul style="list-style-type: none"> バイオマス発電設備からのグリーンCO2回収技術の実証とCO2利用技術の開発 	各種パイロット設備・実証機、製造設備等
	ガス化	<ul style="list-style-type: none"> 持続可能な燃料(SAF等)のサプライチェーンへの参画と協業体制の確立 	
(2) 再エネ促進事業	LAES	<ul style="list-style-type: none"> 商用実証によるアグリゲーション運用の最適化 系統用大容量蓄電設備としてのビジネス展開 	
	洋上風力 (基礎構造物)	<ul style="list-style-type: none"> 横須賀製造所および愛媛製造所（西条工場）の連携を含めた生産体制の強化 	

事業化戦略概要



FT合成 (技術研究所とエネルギー環境事業部の共同開発)



再生可能エネルギー主電源化を支える Highview Power 液化空気エネルギー貯蔵システム (LAES)

広島ガス株式会社殿とパートナーを組み実証プラント建設中

CO₂を含む合成ガス(COとH₂)を触媒に接触させることで、高セタン価の液体燃料を硫黄分ゼロで生成するFT合成プロセス(Fischer-Tropsch Process)開発

群馬県立産業技術センターの協力を得て開発中



将来の業績に関する予想、見通しなどは、現在入手可能な情報に基づき当社が合理的と判断したものです。
したがって実際の業績は様々な要因の変化により、記載の予想、見通しとは異なる場合があります。